

HPVワクチン、男性も接種

がん社会 を診る

中川 恵一

性交渉によるウイルス感染が原因となるがんには子宮頸(けい)がんや成人T細胞白血病(ATL)があります。

ATLの場合、ウイルスの

感染から白血病の発症までに50年もかかりますから、高齢者に多い病気で。一方子宮頸がんは、原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染からがんの発症までの「潜伏期間」が短く、ピークは30〜40歳代です。20歳代の患者も珍しくなく「マザークラー」の異名をもちます。

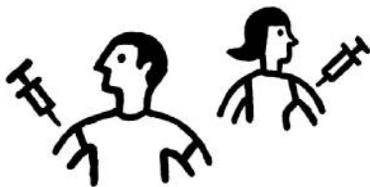


イラスト 中村 久美

HPVに対するワクチンが法定接種の対象となっており、小学校6年〜高校1年の女子は無料で受けられます。ただ副反応に関するセンセーショナルな報道などを契機に、一時8割近かった接種率はほぼゼロになりました。

国は2013年4月にHPVワクチンを法律に基づく定期接種の対象としましたが、同年6月には「積極的勧奨」を中止しました。対象となる児童・生徒の家庭へ接種の通

知を出さなくなったのです。

この措置は22年度末まで約9年間も続きました。騒動の影響は甚大で、接種率は1割以下と低迷したままです。

積極的勧奨を差し控えた9年の間に接種対象年齢だった1997年4月2日〜2007年4月1日生まれの女性は、25年3月まで無料で「キヤッチアップ接種」を受けることができます。

性経験のある女性の8割程度(男性は9割)が一度はHPVに感染します。ワクチンは感染したウイルスを排除する効果はありませんから「セックスデビュー」後の接種では有効性は下がります。それでも一定の予防効果はありますが、受ける人は一握りにすぎません。

先進国のなかで日本だけがHPVワクチンの接種が進みません。例外的に子宮頸がん

の罹患(りかん)率が上昇しており、大問題です。

またこのウイルスは子宮頸がん以外にも、扁桃腺などに行き渡る中咽頭がんや陰茎がんの原因にもなります。特にオラルセックスが感染ルートになっているとみられ、男性に多い中咽頭がんの5〜7割でHPVが原因となっています。HPVは子宮頸がんだけでなく、男性にとっても重要な発がん要因だといえます。

男性へのワクチン接種を独自に進める自治体も出てきています。千葉県いすみ市では小学6年〜高校1年生を対象に指定の医療機関で接種した場合、約5万円の接種費用が全額助成されます。東京都中野区も同様の助成を8月から始める予定です。

男性への接種は海外では当たり前になっており、オーストラリアなどでは子宮頸がんの撲滅も視野に入っています。日本もキヤッチアップし、いかなければなりません。(東京大学特任教授)